

No.5 : ブックフェアに初出展 ～「選ばれるとちぎ」へPR～（令和5年8月22日）

来場者100万人を誇る香港最大のB to C（対消費者商取引）イベント、それが「香港ブックフェア」だ。同イベントにおいては、日本各地の観光情報のみならず、各地域のアニメや漫画等のソフトコンテンツを活用して、従来の観光PR以上の成果を上げることが目指し、2014年からジャパンパビリオンが設置されている。

本年度は7月19日～25日、香港コンベンション&エキシビジョンセンターで開催され、本県として初めて同パビリオンへの出展を果たしたため、その結果についてレポートしたい。

本年度の同パビリオンには、北は青森県から南は沖縄県まで24地域の自治体および観光協会、在香港日本国総領事館、日本政府観光局（JNTO）等が出展した。ミニねぶたが展示された青森県ブース、日本の居酒屋を再現した福岡県ブースなど、各団体の特色あふれるブースでパビリオン全体が彩られていた。

本県ブースでは、日光とあしかがフラワーパークを大きくフォーカス。季節の移り変わりによってその姿を変える華厳の滝や色鮮やかな大藤が多く、来場者の目を引いていた。

また、東武鉄道の協力を得て、7月15日にデビューしたばかりの新型特急「スペーシアX」のフォトパネルを設置したところ、家族連れをはじめとした多くの方に記念撮影を楽しんでいただくことができた。さらに、県のマスコットキャラクター「とちまるくん」も登場してブースでの記念撮影に応じるとともに、ステージイベントでは「とちまるくん体操」を披露して観客を大いに沸かせていた。

多くの来場者に本県をアピールすることができたと思うが、その一方で、「栃木」の読み方が分からない、どこに本県があるか分からないといった方がまだ多いと感じたのも事実だ。

また、JNTOが大きな日本地図のパネルを用意し、行きたい都道府県にシールを貼ってもらうという調査を実施したが、本県に貼られたシールの数は多くはなく、香港での本県の位置づけを改めて認識させられたところだ。

日本に旅行する香港人は多いが、その中でいかに栃木県を旅行先として選んでもらうかは大きな課題である。「香港から選ばれるとちぎ」を目指し、引き続きさまざまな機会を捉えて本県のプロモーションを行っていきたい。（県香港事務所長 卯木啓之）



【香港ブックフェアにおける県ブースの様子

=7月24日、湾仔の香港コンベンション&エキシビジョンセンター】